

第一回 食品安全文化の可視化に関する研究会

日時：令和6年7月3日（水）14:00～

場所：農林水産省 三番町共用会議室 大会議室

次第

1. 開会
2. 事務局挨拶
3. 議事
 - (1)食品安全文化の可視化に関する研究会について
 - (2)意見交換
4. 閉会

研究会の今後の進め方について

○研究会構成員から提供のあったアンケート案をベースに、アンケートの開発を決定した。

○後日、アンケートフォームを研究会構成員へ共有し、加除修正を行う。

第一回 食品安全文化の可視化に関する研究会の主な意見

○A氏

（配布資料のアンケート案の説明）アンケート作成の背景は、「Culture Excellence」を使用して見たところ、英語で記載された内容を翻訳したものであり、日本の実状にそぐわない設問や考え方も含まれたため、使いにくいと感じた。この評価結果から、自社の強みや弱みが明らかになれば良いと考えていたこともあり、自社で作ることとなった。社内独自の用語は平準化したい。また、設問のなかに、工場内の進化を問うているものがあるが、この設問が適切かも検討したい。

○B氏

（配布資料のアンケート案の説明）学校給食における食品安全文化に関する研究では、東京都公立校で給食を担当される方に向けた評価尺度を開発した。これは調理従事者に向けた質的研究（インタビュー調査）から、設問項目を作成後、統計的にカテゴリー、項目を抽出したもので、5つのカテゴリー、20の設問で構成されている。

○C氏

（配布資料のアンケート案の説明）食品安全文化が従業員の食品安全行動に与える影響—中小食品製造事業者の調査【23年2月4日東京海洋大学修論発表会】はJFSMから紹介いただいた会社に対して行った評価であり、学校給食における食品安全文化に関する研究の設問項目を確認し、見直し、必要に応じて追加した。

○D氏

（食品安全文化のアンケート作成は）中小企業の底上げを目的にしており、この点を念頭に置き議論していきたい。そうでなければ、基準がかなり高くなってしまう。

○E氏

食品安全文化についてはこれから取り組みを予定している。

「Culture Excellence Survey」と「Engagement Survey」を過去実施したが、評価結果をいかに活用することができるかが重要と考えている。

○F氏

「Culture Survey」を当社のすべての従業員を対象に実施した。バックオフィス分野でも文化醸成は必要な要素と考えており、今後そちらにも着手しようと考えている。

○G氏

サプライヤーと食品安全文化について話す機会があり、そのなかで、まずは、自分たちの組織を知る必要があるという結論に至った。ただ、まだ、「Culture Survey」も使えていない。今回、アンケート案をご紹介いただいたので一度使わせていただこうと思う。また、食品安全文化については、経営者もきちんと理解してもらう必要があると考え、大学の先生に講義いただいた。

○H氏

全く何もできていない。まずは経営者に食品安全文化という言葉を理解してもらう必要がある。一方で、工場監査に出向くと監査項目に食品安全文化という言葉が出てくる。まだ、監査員によって食品安全文化への認識が異なる状態なので、このような評価ツールができあがることは良いことだと思う。

○I氏

数年前から食品安全文化という言葉を知ることになった。その際に、「Culture Excellence」を紹介され、去年から、全てのサプライヤーでこのツールを使用いただけるよう活動してきた。組織としての目標を立てるにあたっては、まずは現在の組織内の状態を把握しなければいけないと感じている。

○J氏

JFS-B plus に食品安全文化に関する要素を加えたので、監査員の指針を統一する必要があると考えている。また中小企業向けであれば、レスポンスガイダンスを設けるべき。このガイダンスが肝になる。

○K氏

（食品安全文化のアンケートで）主観評価をする際、同じ5という点数であっても捉え方は人それぞれ。このような結果に対しては、一つのシグナルとして捉えると良いのではないかと提案している。従業員同士、現場の状況を把握するきっかけになると良い。また、この評価ツールの対象は製造業。まずは、この評価ツールをベースにすれば良いと考える。一方で、先行研究では、主観評価と客観評価がずれる点が指摘されている。「良い点数が出たから、食品安全文化が醸成されている」と単純転換されないようにしていきたい。

○L氏

（食品安全文化のアンケートは）客観的なデータと主観的な部分が一致するように、設問内容を検討すべき。

○M氏

この（食品安全文化のアンケートの）評価結果は満点を目指すものではなく、むしろ、この結果を使ってPDCAをまわすきっかけとなるように、丁寧なアナウンスをしていきたい。

○N氏

食品安全文化ですべてが解決するわけではないので、そこは心に留めておくべき。本日よりご紹介い

ただいた資料について、設問が混在していたり、中小企業に使っていただくためには設問を減らしたり改善できると思う。本日ご紹介いただいた資料をベースに、企業ごとの異なる文化を追加していけば良い。

以上